

初台リハビリテーション病院

納涼祭が盛大に開催されました

8月27日に納涼祭を開催しました。菅原院長の挨拶でスタートし和太鼓・盆踊り・男前神輿と会場は大盛況でした。スタッフが準備を重ねた模擬店ではヨーヨー釣り・射的・ダーツと楽しめるものから、綿菓子・チョコバナナ・かき氷・ポップコーンなどお祭りの定番の食べ物の出店がありました。今年の納涼祭のキャッチコピーは「輝け!みんなの笑顔!」でしたが、患者さま・ご家族・スタッフ全員の笑顔が輝いていた納涼祭となりました!



船橋市立リハビリテーション病院

夏祭りを開催しました

患者さまに季節感を味わってほしい、という思いから毎年当院自慢の広いリハビリ室で夏祭りをを行っています。今年度もたくさんの患者さま・ご家族に参加していただきました。職員による太鼓演奏や船橋の郷土芸能であるばか面踊りを披露したりと大変盛り上がりました。各チーム手作りの看板などを作成し本格的なお祭りの雰囲気となっていました。これからも当院の伝統として受け継がれていって欲しい行事の一つです。



船橋市リハビリセンター

第16回船橋市地域リハビリテーション研究大会 開催

9月21日 船橋市保健福祉センターにて行われ、171名の方が参加されました。特別講演では医療法人真正会の理事長斉藤正身様にお越しいただき、「地域包括ケアシステムと通所リハビリテーション」というテーマで地域における今後の通所リハビリの方向性をお示しいただきました。参加者からは「デイケア、デイサービスのあり方についてとても勉強になった」との声が多数寄せられ、「デイケアの役割を考えるようになった」と大盛況でした。次回は平成30年2月17日開催いたしますので、ぜひご参加ください。



在宅総合ケアセンター元浅草

通所リハ 児童と鉄道交流会について

平成29年9月16日(土)に在宅総合ケアセンター元浅草5F通所リハビリテーションにて、地域の子どもクラブ(児童館)の児童との交流会を行いました。これまでも七夕会やクリスマス会など、年に数回の交流会を行ってまいりましたが、今回は、台東区社会福祉協議会様と、日ごろよりボランティアでご協力頂いている方のご高配により、鉄道模型(ジオラマ)にふれながらの交流会を実施致しました。実際にテーブルの上に敷かれたレール上の電車を、コントローラーの操作により走らせたり止めたりする体験は、利用者の皆様にとっても初めての体験とあって目を輝かせながら操作レバーを操る様子が伺え、童心に返りながら子供たちとの楽しい時間を過ごしました。

在宅総合ケアセンター成城

開院して一周年を迎えることができました

昨年8月に「成城リハケア病院」がオープンし1年が経過しました。病床数が18床から26床となり、患者さまご家族さまのご理解、ご協力のもとスタッフ一丸となって業務に取り組んでまいりました。今年4月からはさらに充実した受入体制や、在宅復帰に向けた支援等を提供するために療養病棟から地域包括ケア病棟へ変更し、地域の皆様に信頼される施設としてより一層努めてまいります。今後とも宜しくお願い申し上げます。



緑の下の力持ち ~輝生会クラークのご紹介~

輝生会では、開院時から病棟に事務の専門職であるクラークが常駐しています。様々な職種のスタッフがそれぞれの専門性を発揮して患者さまのケアに専念できるように、事務作業を一手に引き受けています。また、患者さま・ご家族さまが安心して過ごせるようにサポートもしています。病棟に入るとすぐのスタッフステーションから、笑顔で挨拶や仕事をしている病棟クラークの明るい声が響いています。そんなクラークのお仕事をご紹介します。

1日の業務内容は主に入退院患者さまの対応から始まります。入院受けの準備や退院患者さまのお渡し書類の準備をしつつ、曜日によってはクリーニング対応や請求書配布等他の業務も行います。また、患者さまに関わる理美容の予約・家族食の予約・外出泊届の処理を行いながら請求書作成、ご家族や市役所から届く書類処理等も行っています。

クラークのある1日のスケジュール

8:30	・サポート部にて朝礼
8:35	・病棟ミーティング ・入院受け準備・情報収集・カルテ確認
9:00	・病棟内生花の手入れ/病棟内ラウンド
10:00	・入院、退院事務手続き/書類、物品棚補充 ・昼食の食数確認/家族食の依頼受注、予約 ・外出、外泊登録/クリーニング対応
11:30	・昼食準備 (テーブルクロス敷き)
12:00~13:00	< 昼 休 憩 >
13:30	・昼食後テーブルクロスの片付け・食堂片付け ・翌日の入院カルテ準備・翌日の退院請求書作成準備
14:00	・入院、退院準備・書類依頼処理、完成書類お渡し ・請求書配布/検査データのカルテ綴じ
16:30	・夕食、翌日朝食の食数確認
16:40	・翌日のリハビリスケジュール全患者さま分印刷 ・夕食準備 (テーブルクロス敷き)
17:00	・病棟ミーティング/リーダークラークへ業務連絡
17:15	・翌日出勤クラークへ申し送り記載
17:30	

初台のクラークから



言葉が出づかった患者さまがリハビリ後に『ただいま』と一生懸命声をかけてくださる姿や、車椅子等で入院してきた患者さまがリハビリを重ね、歩行できるようになった姿を見れた時、元気をもら

らい嬉しくなります。他病院に負けない、おもてなしの心・親切な対応・他職種との連携・チームアプローチを円滑にし、この病院を選んで良かったと思われるよう、クラークチーム一同精進していきます。



船橋のクラークから



フロア案内で患者さまと接していると顔を覚えていただけるので、退院された後にお会いするとわざわざお声がけいただきお元気そうな姿を拝見出来覚えてくださったんだと嬉しく思うこ

とがあります。また、各階に胡蝶蘭を飾っておりよく「本物ですか?」とご質問いただきますが本物です。来院された際は是非ご覧になって下さい。



季刊情報誌「輝NET」 編集発行 医療法人社団 輝生会 本部/〒110-0015 東京都台東区東上野1-28-9 5F <http://www.kiseikai-reha.com>

初台リハビリテーション病院 〒151-0071 東京都渋谷区本町3-53-3 TEL.03-5365-8500 <http://www.hatsudai-reha.or.jp>
 船橋市立リハビリテーション病院 〒273-0866 千葉県船橋市夏見台4-26-1 TEL.047-439-1200 <http://www.funabashi-reha.com>
 船橋市リハビリセンター 〒274-0822 千葉県船橋市飯山満町2-519-3 TEL.047-468-2001 <http://www.funabashi-rehacen.com>
 在宅総合ケアセンター元浅草 〒111-0041 東京都台東区元浅草1-6-17 TEL.03-5828-8031 <http://www.motoasakusa-reha.com>
 在宅総合ケアセンター成城 〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3-8-7 TEL.03-5429-2292 <http://www.seijo-reha.com>

本誌へのご意見ご要望はメールにてお寄せください。 contact@kiseikai-reha.com

輝生会の 基本理念と方針

- 「人間の尊厳」の保持
- 「主体性・自己決定権」の尊重

- 「地域リハビリテーション」の推進
- 「ノーマライゼーション」の実現

■ 「情報」の開示

輝生会における 患者さまの権利

- 人権を尊重される権利
- 最善の医療を受ける権利
- 自分の診療の情報や記録を知り、求める権利

- 自らの意思で選択・決定する権利
- プライバシーの保護を求める権利

輝生会の職場内ハラスメント対策「しない・させない・されない」

文責／教育研修部長 取出涼子

厚生労働省は、都道府県労働局に寄せられる各種の相談の増加を踏まえて、平成23年度に「職場のパワーハラスメントの予防・解決に向けた提言」を取りまとめました。しかし、大手広告会社の事件などをきっかけに、今、あらためて職場内のハラスメント防止対策が注目されています。

そこで、平成28年度から、輝生会においても職場におけるハラスメント対策を検討することになりました。今回はその取り組みをご紹介します。

ハラスメントとは、端的に表現すれば、いろいろな場面でのいやがらせ、いじめ、のことです。他者に対する発言・行動等が、本人の意図には関係なく、相手を不快にさせたり、尊厳を傷つけたり、不利益を与えたり、脅威を与えることです。セクシャルハラスメント、パワーハラスメント、マタニティ（パタニティ）ハラスメント、エイジハラスメント、テクノハラスメントなどさまざまな種類があるといわれています。

全職員対象のアンケート

平成28年11月30日に、非常勤職員を含む全職員を対象に、ハラスメントに関するアンケート調査を実施しました。アンケートの中には、職員の意見として、「日頃から風通しのよい職場風土を醸成し、もし問題が発生した時には迅速で公平な対応ができるように、職員相談窓口の周知と利用しやすいように改善してほしい、管理職研修を実施してほしい」などの提案がありました。

そこで、平成29年1月30日の法人の最高経営会議にて、ハラスメントを「しない・させない・されない」職場風土づくりを決議し、平成29年度の取り組みとして、職員相談窓口の充実、管理職研修の実施、定期的なアンケートの実施、が決まりました。

Stop the Harassment

「トップ（理事長）のメッセージ」の発信

厚生労働省のガイドラインでは、ハラスメントに関するトップのメッセージが明確になることで、職員が意見を挙げやすくなり、ハラスメントを防止する風土の醸成につながる、とされています。

当法人の理事長の石川誠は、右記の内容でメッセージを発信いたしました。このメッセージは理事会、管理職研修・サブマネジャー研修で伝達し、今後、全職員へ伝達していく予定です。

トップのメッセージ

「輝生会におけるハラスメントへの対応」

- 輝生会は、パワーハラスメントなど、個人の尊厳を損なう行為を許しません。また、それらを見逃ごすことも許しません。
- 輝生会のスタッフは、パワーハラスメントなど、個人の尊厳を損なう行為を行ってはなりません。
- 輝生会は、パワーハラスメントなどの解決のために相談窓口を設け、迅速で的確な解決を目指します。

管理職研修・サブマネジャー（主任クラス）研修

平成29年5月、輝生会に所属する管理職全員を対象に、経験豊かな外部講師（21世紀職業財団 吉田仁志講師）を招いてハラスメントに関する1日研修を実施しました。研修は「輝生会の理念を達成するために、管理職ひとりひとりが人権尊重について認識する」というテーマで、まずはハラスメントに関する基礎知識を得たのち、グループワークを通して学びを深めました。

吉田講師の重たいテーマだからこそ笑いを交えながらの豊富な内容に、多くの管理職があらたに貴重な気づきを得ることが出来ました。たとえば、「ハラスメント」という言葉の正しい定義や知識を得たことはとても貴重でした

し、自分の行動を深く振り返る機会にもなり、なにより、職場内のコミュニケーション（講師の言葉でいうと「まじめな雑談」）の重要性を再認識する機会となりました。

平成29年6月・7月に開催したサブマネジャー研修では、同じテーマにて管理職研修で学んだことを伝達し、現場のスタッフの一番身近な存在として現場業務の教育を行っている立場から、ハラスメントを「しない・させない・されない」ためにどうするか、グループワークをしました。サブマネジャー自身は、自らがハラスメントをしてしまう可能性がある立場であるとの認識を深めることができました。そして、ハラスメント防止に向けて、研修で得た学びを部下スタッフにも伝え、お互いに「しない・させない・されない」風土を浸透させていきたい、との意見がでました。

管理職・サブマネジャーが一丸となって風土づくりに取り組むという姿勢を表すため、研修の成果はすべての職員が目に見える場所に掲示（または冊子で配布）しました。

相談窓口の充実

輝生会にはもともと職員相談窓口がありました。しかし、アンケートにて、十分な周知がされていないことや、職場以外の相談相手を望む実態が浮かび上がりました。

そこで、平成29年6月からは、アクセスがよく、ハラスメントに限らず相談できる外部の相談窓口を増設しました。新しい窓口を利用したスタッフの一部から、利用してよかった、という声を聞いています。

ハラスメント防止に取り組む意義

この活動の一番の意義は、職員同士が尊厳を尊重し合い、満足度の高い職場になることです。職員同士が尊厳を尊重の意味を理解し大切に法人になることが、患者（利用者）さま・家族の尊厳を尊重し、質の高いリハビリテーション医療サービスにつながると考えています。

すべての方が、生き生きと輝いて生活してほしい、という法人の設立の初心に折に触れて立ち返り、取り組みを続けていきたいと思えます。

テレビ東京「カンブリア宮殿」に放送されました



入院患者さまのおほめの言葉からテレビ東京「カンブリア宮殿」より番組企画のお誘いがありました。数か月の取材を経て、6月15日（木）午後10時から1時間番組として放送され、大きな反響をいただきました。放送内容をテレビ東京番組紹介より抜粋します。

患者を劇的に回復！初台リハビリテーション病院

元サッカー日本代表監督の伊ビチャ・オシム氏など、多くの著名人が奇跡の復活を遂げたのが、「初台リハビリテーション病院」。高齢者だけでなく、20歳代の女性患者の姿もある。かつては脳卒中で倒れると、そのまま「寝たきり」になることが多かった。ところが、この病院では患者に365日の徹底したリハビリを行い、家に戻すことを可能にしている。在宅復帰率は約9割。基準の5倍以上に手厚く配置されたリハビリスタッフと、チーム内の密な情報共有で、とことん患者のやる気を引き出していくのだ。

脳神経外科医から転身

元は脳神経外科医だった石川。長野の佐久総合病院に勤務していた頃、脳腫瘍の手術を担当した50代の患者が寝たきりになってしまった。その時、若月院長に言われた言葉に衝撃を受けた。「この患者の人生は、全て君が責任を持つんだ」。命を救うだけでなく「患者の人生を丸ごと診る医療」の重要性に気づかされリハビリ医へと転身、日本のリハビリ医療の草分けとなった。

退院してからも安心の在宅サービス

病院でのリハビリで復活を果たしても、退院後再び寝たきりになってしまうケースは少なくない。石川は、下町・浅草に、在宅の人々を支えるための医療・介護の総合施設を作った。「かかりつけ医」のように、あらゆるサービスをワンストップで提供。「地域から寝たきりをなくす」という壮大な理想の実現に向け、石川は挑戦し続けている。

ご覧になりたい方は「テレビ東京ビジネスオンデマンド」より視聴できます。
<http://txbiz.tv-tokyo.co.jp/pages/start/>